

令和5年度 学校経営計画に対する中間評価報告書

石川県立金沢二水高等学校

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
<p>1 学習指導： ICTを効果的に活用するとともに、グローバル社会で求められる主体性や表現力を育成する。</p>	<p>① ICTの効果的な活用とともに、生徒の論理的な思考力や批判的な思考力を育成するための授業の工夫を促し、研究授業等の機会を設けることで教員間で共有する。</p>	<p>「授業を通して思考力が高まった」の問いに対して「あてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：90%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：75%未満 昨年度：87.3%</p>	<p>7月 生徒による授業評価結果 「あてはまる」：45.9% 「おおむねあてはまる」：44.1% 合計：90.0% 【達成度A】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年同期より「あてはまる」と答えた生徒が4.5%上昇した。</li> <li>・今後も、総合的な探究の時間における課題探究や、AL(アクティブラーニング)型授業などで、意見交換の場を増やす等、様々な機会を通して、さらに思考力を高めていく。</li> </ul>
	<p>② 学習や部活動・学校行事などの機会を活用して、「振り返り」を導入することによって、生徒一人ひとりが自らの課題を設定し、克服しようとする力を育む。</p>	<p>「学校生活において、何をすべきかを自分で考えて主体的に行動している」の問いに対して「よくあてはまる」あるいは「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：90%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：75%未満 新しい質問項目</p>	<p>7月 生徒アンケート結果 「よくあてはまる」：28.8% 「おおむねあてはまる」：57.0% 合計：85.8% 【達成度B】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい質問項目であり、過年度との比較はできないが、今後「よくあてはまる」がより上昇していくことが望ましい。</li> <li>・「失敗してもいいから、とにかくやってみる」ということを授業、部活動、学校行事といったあらゆる場面で伝えていく。</li> </ul>
	<p>③ 適切な発表技術等を生徒に教えるとともに、自分の意見や調べたことを発言・発表できる場を授業や学校行事で設定する。</p>	<p>「授業を通して表現力が高まった」の問いに対して「あてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える生徒が A：90%以上 B：85%以上 C：75%以上 D：75%未満 昨年度：82.2%</p>	<p>7月 生徒による授業評価結果 「あてはまる」：41.6% 「おおむねあてはまる」：44.2% 合計：85.8% 【達成度B】</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年同期より「あてはまる」と答えた生徒が5.0%上昇した。</li> <li>・新型コロナウイルスによる、発言等の場面の制限が緩和されたことで、授業中での発言の場面は増加している。「あてはまる」と答える生徒がさらに増加するよう、授業で心理的安全性を担保しながら、自らの考えを表現する機会を増やす等一層の工夫をしていく。</li> </ul>
	<p>④ 主体的な学習の基盤となる豊かな知識と思考力・判断力を身につけるため、探究活動との連携や図書委員会の活動を通して図書館利用の促進を図り、生徒の読書活動を推進する。</p>	<p>図書の貸し出し冊数が A：4,000冊以上 B：3,000冊以上 C：2,000冊以上 D：2,000冊未満 昨年度：2,069冊</p>	<p>4月からの図書の貸し出し冊数 <u>530冊</u> (1,047冊) 【達成度D】 (※7月末時点)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は、昨年度に比べると貸出冊数が半分程度となっている。原因としては、1年生対象のオリエンテーションが例年ほどの時間がとれなかったこと、授業での図書館の活用が減ったことが考えられる。</li> <li>・今後は、授業や総合的な探究の時間での活用を増やし、特設コーナーを設置するなど、生徒が図書館に足を運び、本と出会えるような工夫を行う。</li> </ul>
<p>学校関係者評価委員会の評価</p>	<p>高校年代においても、授業の中でグループワークやブレインストーミング等の方法で想像力や発想力を育成してほしい。表現力を向上させるためにも有効であり、自己肯定感を高めることにもつながっていくはずである。</p>			
<p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策</p>	<p>総合的な探究の時間だけではなく、一般教科の授業の中でも、対話や協働的な学びの中で自分の意見を表現する機会を創出し、グローバル社会の中で求められる資質能力を磨く授業づくりを行う。</p>			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
2 進学指導： 生徒の進路意識の成熟を促し、高い目標を強い意志を持って実現する生徒を育成する。	① 将来にむけて、一人一人のキャリアビジョンの発達を促すため、学部学科研究、職業講話などを通し、文理選択や学部学科選択、将来について広く考える機会を設け、系統だったキャリア教育を適切な時期に適切なかたちで行う。	全学年、「前より自らの将来のキャリアについて深く考えるようになった」と答える生徒が A：75%以上 B：60%以上 C：65%以上 D：60%未満  新規の指標	6月・7月 生徒アンケート結果 「深く考えてみる事ができた」：43.4% 「前より考えてみる事ができた」：43.6% 合計：87.0% 【達成度A】	・今年度より1年生は、秋の文理選択にむけて、6月から7月にかけてライフプランづくりや適性診断などを実施しており、系統だったキャリア教育を適切な時期に行っている。 ・今後も3年間見通したプランのもと、適切な時期に実施できるよう準備していきたい。
	① 保護者懇談や保護者対象の進路説明会、生徒への面談とおして、生徒の進路に関して保護者と十分情報交換を行い、信頼関係を築く。 特に3年生の保護者には、5月及び8月に進路説明会を行い、改革された入試制度について、本校の実績を踏まえて説明する。	「本校の進路指導や保護者への情報提供は適切であるか」の問いに対して「よくあてはまる」または「おおむねあてはまる」と答える保護者が A：90%以上 昨年度 B：80%以上 よく：17.8% C：70%以上 おおむね：63.7% D：70%未満 合計：81.5%  【達成度B】	7月 保護者アンケート結果 よくあてはまる：18.4% (16.4%) おおむねあてはまる：67.9% (63.7%) 合計：86.3% (80.1%) 【達成度B】	・「よくあてはまる」の割合は2%、「おおむねあてはまる」の割合は4.2%増加し、「合計」では6.2%増加した。 ・学年別に見ると、肯定的な評価についてのポイントはほとんど変わらない。今年度は昨年度より進路関係の行事について、HP上で発信回数を増やしていることがその理由の一つと考えられる。 ・3年生の保護者に対しては5月に第1回、8月に第2回の説明会を実施し、2年生、1年生の保護者に対しても、9月に説明会を実施予定で、進路情報の提供を行う。的確な情報提供に努め、保護者のニーズに応えたい。
	② 担任の生徒面談や、学年集会・進路講演会・進路説明会等の各種進路行事を有効に活用し、生徒の意欲を高めるとともに、具体的に取り組む課題を明確にし、共有する。 難関大志望者に対し、2年次から説明会を実施し集団づくりを行う。	①3年生の9月段階で難関大・金大を志望する生徒が A：65%以上 B：60%以上 C：55%以上 D：55%未満 昨年度：62.0% ②3年生の9月段階で、生徒の学習時間(授業以外)の平均が A：週45時間以上(平日5、休日10時間換算) B：週34時間以上(平日4、休日7時間換算) C：週27時間以上(平日3、休日6時間換算) D：週27時間未満 新規の指標	9月初旬に志望校調査・学習時間調査を実施予定	・6月進研共通テスト模試では、234名の生徒が難関大・金大を志望しており、全体で60%を超えている。 9月初旬に志望校調査・学習時間調査を実施予定
	③ 生徒個々の志望や学力にあわせた、各大学に応じた入試対策を補習や個別添削指導を行い、進路実績の向上を図る。 近年入試で求められる情報処理能力や表現力、思考力を高める授業へと各教員が改善する。	現役合格者数が 金大80以上、難関大30以上 A：両方を満たす B：どちらか一方を満たす 金大70以上、難関大20以上 C：両方またはどちらか一方を満たす D：両方を満たさない		
学校関係者評価委員会の評価	総合的な探究の時間で、生徒自身の好きなことを追求できるプログラムにすることでキャリア形成につながっていく可能性がある。 学校の外部とのつながりの中で大人や大学生と話す機会があればキャリア形成やモチベーションの向上に寄与すると考えられる。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	さまざまな行事や総合的な探究の時間で、外部リソースを活用し、学校外の体験を意識的に増やすことに努めていきたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
3 生徒指導・部活動: 人間形成に主眼を おいた生徒指導を 行い、進学校にふ さわしい部活動を 追求する。	① 勉強と部活動の両立を図るた めに効率的な活動を追求し、生 徒の学習時間の確保や、部員が 勉強に主体的に取り組む姿勢を もつような指導を工夫するよう 呼びかける。また、部活動で得 た自信を勉学につなげ真の文武 両道を目指す。	「勉強と部活動の両立ができてい る」の問いに 対して、「よくあてはまる」「おおむねあては まる」と答える生徒が A: 80%以上 B: 70%以上 C: 60%以上 D: 60%未満 昨年度: 73.4%	① 7月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年: 72.1% 2年: 65.5% (66.5%) (61.5%) 3年: 70.2% 全体: 69.3% (78.1%) (68.7%) 【達成度C】	・1年生、2年生ともに昨年に比べ値が上昇している。 ・3年生は昨年度に比べ、約8%低い。県総体・総文が終わり 受験への不安が一因であると思う。県総体後の1、2年生の 退部者は昨年度ほどではなく、部活動を頑張ろうという雰囲気 は感じる。
	② 生徒が自主的に挨拶を行うよ う、生徒会等の挨拶運動を継続 するとともに、教職員自らが積 極的に挨拶を行うことで範を示 し、教職員、生徒の自覚をさら に高める。	「挨拶はしっかり行っている」の問いに 対して、「よくあてはまる」「おおむねあてはま る」と答える生徒が A: 90%以上 B: 80%以上 C: 70%以上 D: 70%未満 昨年度: 90.8%	7月 生徒アンケート結果 よく・おおむねあてはまると答えた割合 1年: 91.6% 2年: 89.2% (91.8%) (87.2%) 3年: 88.2% 全体: 89.7% (94.4%) (91.1%) 【達成度B】	・昨年同時期より、1年・3年はやや数値が低くなっているが 2年は少し高くなっている。 ・生徒会のあいさつ運動、部活動での指導を継続し、生徒の自 覚を高めていきたい。
	③ 本校の「いじめ防止基本方 針」に基づき、いじめアンケ ー、個人面談・保護者懇談や学 校行事等の取り組みを堅実に実 施することで、いじめの予防 や、早期発見を行う。	「いじめ予防や早期発見、早期対策に取 り組んでいる」の問いに 対して、「よくあてはまる」 「おおむねあてはまる」と答える教員が A: 95%以上 B: 90%以上 C: 75%以上 D: 75%未満 昨年度: 95.7%	7月 教職員アンケート結果 よくあてはまる: 43.8% (54.9%) おおむねあてはまる: 54.7% (45.1%) 合計: 98.5% (100%) 【達成度A】	・今年度も、学年団の迅速な面談等で、いじめにつながりか ない人間関係トラブルを把握し、その後の指導・観察等に役 立てようとしている。今後も継続して取り組んでいきたい。
	④ 日頃からの生徒観察により、 気づいたことを関係者が素早く 共有することを全教職員が心が ける。またチーム学校として連 携し、的確な対応を組織的に行 うシステムを構築するとともに 外部機関と連携し、心身の調和 を基盤とした生徒の人間形成を 図る。	「担任・教育相談室・保健室等と情報 を共有し、問題(悩み)等を抱える生徒の 早期発見・早期解決に努めているか」 の問いに 対して「よくあてはまる」と答える教員が A: 60%以上 B: 50%以上 C: 40%以上 D: 40%未満 昨年度: 48.6% 「おおむねよくあてはまる」を加 えると98.6% (R3 97.1%)	7月 教職員アンケート結果 よくあてはまる: 45.5% (49.3%) おおむねあてはまる: 53.0% (47.9%) 合計: 98.5% (97.2%) 【達成度C】	・配慮の必要な生徒について、関係者との連絡を定期的に、又 必要に応じてすみやかに実施し、共通理解を図るとともに的確 な対応を行っている。 ・悩みや問題を抱える生徒について、関係職員と共有し、組織 的に支援していく体制を継続していきたい。 ・「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」を合計すると、ほ ぼ100%である。各教員が自信を持って、「よくあてはま る」と答えられるよう、教員の意識を高めていきたい。
学校関係者評価委員会の評価	積極的に学校生活を送っている生徒だけではなく、自らのあるべき姿や進むべき方向に悩みながら生活を送っている生徒がいることにも目を向けることが大切。そんな生徒達にも、今は開花しなくても、いつか成熟したときに乗り越えられることが信じられる高校時代になるよう支援をしていければよい。			
学校関係者評価委員会の評価結 果を踏まえた今後の改善方策	思春期特有の悩みや自己肯定感の低さを念頭に、高校年代という短期間での成果ではなく、長い人生の中で自らを成長させていけるような力と視座を与えていけるように、普段の授業以外にも、講演会など様々なアプローチで伝えていく。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果(カッコ内昨年同時期結果)	分析(成果と課題)及び後期の扱い(改善策等)
4 学校組織： 業務の効率化を進め、高い専門性と広い見識に基づいた協働的な教育活動を追求する。	定時退庁日等の設定や会議の効率化を図るとともに、タイムマネジメントの意識を高めるとともに、ワークライフバランスを推進することで、教育活動の質を高める。 STEAM教育や制服検討、土曜補習改革などのプロジェクトチームの立ち上げにより、自己研鑽や協働の機運を醸成する。	①「効率化やタイムマネジメントを意識した業務の遂行に努めている。」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 昨年度：84.3% ②「社会の変化を意識して、新しい教育に意欲的に挑戦している」の問いに対して「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が A：80%以上 B：70%以上 C：60%以上 D：60%未満 新しい質問項目 (参考) 昨年度は「本校では社会の変化に合わせて、教育活動の改善が行われている」 昨年度：87.1%	①7月 教職員アンケート結果 よくあてはまる：24.2% (23.9%) おおむねあてはまる：60.6% (49.3%) 合計：84.8% (73.2%) <b>【達成度A】</b> ②7月 教職員アンケート結果 よくあてはまる：26.2% おおむねあてはまる：55.4% 合計：81.6% <b>【達成度A】</b>	① ・「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が84.8%と、昨年同時期より11.6ポイント増加した。 ・今後は教員個々のタイムマネジメントへの意識浸透に向け、業務の優先順位や退校時間を意識した業務を推進したい。また、教材の共有化や定型業務のマニュアル化など、業務改善の効率化に引き続き努めていく。 ② ・「よくあてはまる」「おおむねあてはまる」と答える教員が81.6%であった。 ・STEAM教育推進校の指定を受け、教員間に新しい教育への意識が浸透し機運が醸成しつつある。
学校関係者評価委員会の評価	ICTの活用によって教員の業務の効率化が行われ、自由に使える時間が増えることが望ましい。一方で、負担の軽減や残業時間の短縮を追求していく結果、部活動など熱心に取り組みたい教員のやりがいを奪ってしまうことになるのは違うのかもしれない。また、教員のライフステージの中でも、時間の使い方が変わってくることも念頭に置くべきである。忙しい教員ではあるが、学校の外の組織や機会に関わっていくと視野を広げることにつながると思われる。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善方策	業務の効率化とタイムマネジメントの意識の向上は、引き続き取り組んでいくが、それは自由裁量の時間を作り出し心身ともにリフレッシュして仕事の質を高める意味をもたらす目的の他に、自己研鑽をして視野を広げる余地を生み出すことも目的とする。そうした意識の浸透をさまざまな機会をとらえてはかっていきたい。			